



© Yuki Asada

寒冷地で紡がれたフェルトの小物

「中央アジアのスイス」と呼ばれるキルギス。見渡す限り広がる山々の頂上には雲がかかり、どこか幻想的な風景が広がっている。

そんな美しい姿とは裏腹に、この国の冬は長くて過酷だ。一番寒い時期には、マイナス20度になることも。この間、多くの女性は先祖代々伝わる技術を使い、“ものづくり”に励んでいる。

その中で、キルギスの観光産業への貢献が期待されているのがフェルト製品だ。そもそも遊牧系民族として生きてきたキルギス人。衣食住の大部分が“羊”と強く結び付いており、衣類、靴、じゅうたんなどの原料はほとんどが羊毛。ひと手間、ふた手間かけてフェルト

に加工し、丁寧に縫い合わせてさまざまな形へと仕上げていく。

羊毛の質も良く、女性たちの技術も高い。唯一、必要なのは売れるための工夫だった。そこでJICAはコミュニティー開発の一環として、東部のイシククリ州でデザインや品質の向上、生産グループの組織化、マーケット開発、輸送手段の確保やファンドの創設などを支援。一つ一つの取り組みが実を結び、昨年には株式会社良品計画との連携が実現。彼女たちが手掛けた製品がクリスマスギフトとして、日本全国の店頭に並んだ。

「もっと良いものを作りたい」。そんな思いが形になって生まれた製品は、世界に一つしかないかけがえのないものだ。



各家庭で作業を進めることが多かったが、村内で生産グループを組織化することで大量生産が可能になった

★フェルトのピアスを3人、バッグ、ベビーシューズ（13センチ）、コースター、ポットカバー、コサージュ、シュシュを各1人にプレゼント！→詳細は38ページへ

※一部の製品は愛知県春日井市の「Gallery Cafe Rosily」（www.rosily.co.jp）で購入可能。

